

(2) 施策の方針

第5章 安全で快適な生活が送れるまち

分野(3) 総合交通

施策の方針② 交通安全意識の高揚

<目標とすべきまちの姿>

交通安全意識の普及徹底などの取組を推進することで、交通安全対策の必要性を市民が認知し、市民の交通安全意識が高まっています。

関係機関、団体及び市民の協力により、交通事故の発生件数は年々減少しています。

また、自転車利用者の交通マナーが向上し、市民が安心して暮らせる快適なまちとなっています。

1 事業評価結果一覧表

防災安全部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
防安-10	交通安全対策事業	17,241	36,230	2.5	b	B

2 平成26年度末の目標

防災安全部

年間交通事故死者数を0人とする。

3 平成26年度の取組の評価

防災安全部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

交通安全対策による効果が全てではないが、市内の交通事故発生件数は年々減少している。

4 今後の方向性

防災安全部

子どもから高齢者まで、各世代に応じた交通安全教育の充実を図る。

自転車の安全な利用の促進に関する施策を推進していく。

市内交通関係機関・団体相互の連携を密にして、総合的・効果的なスクールゾーン等での交通安全対策を推進していく。

5 平成27年度末の目標

防災安全部

年間交通事故死者数を0人とする。

人命尊重の理念に基づき、交通事故による死傷者数を限りなくゼロに近づけ、交通事故のない社会の実現を目指す。

鎌倉市民評価委員会の評価

1 評価できるところ

- ・交通安全教育を実施した。
- ・小・中・高校生向けの自転車教室や、高齢者向け交通安全教室の実施など、地道な活動を行っている。

2 課題・提言

- ・施策の方針名称が「意識の高揚」となっているが、課題である「高齢者・二輪車・自転車利用者対策」を切り口とした具体策に重点化したい。
- ・高齢者・二輪車・自転車の関係する事故が、高い割合を示している現状を改善していく必要がある。
- ・交通安全教室やキャンペーンの実施以外、あまり具体性がなく、有効性について「事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している」といえるだろうか。